

「キリシタン能」 再考：イエズス会日本報告の原本から

SCHWEMMER, Patrick / シュウエマー, パトリック

(出版者 / Publisher)

法政大学能楽研究所 / The Nogami Memorial Noh Theatre Research Institute of Hosei University

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

能楽研究 / 能楽研究

(巻 / Volume)

39

(開始ページ / Start Page)

140 (1)

(終了ページ / End Page)

116 (25)

(発行年 / Year)

2015-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00011938>

「キリシタン能」再考

—イエズス会日本報告の原本から—

パトリック シュウエマー

Patrick SCHWEMMER

16・17世紀のイエズス会宣教師達は当時日本で行われていた様々な芸能を、毎週のように「日本報告」に記し、ヨーロッパ本部へ送っていた。これらの記録については芸能史、宗教史の各分野から注目を集めているが、もっとも新しい松田毅一監訳¹をはじめとし、従来の研究のほとんどは目撃者が記した原報告ではなく、ヨーロッパ側で出版された翻訳版本『報告集』に依っている。これらは目撃者が各々スペイン語・ポルトガル語・イタリア語で報告したものをラテン語などに翻訳して、宣教活動への寄附を促す宣伝として編集・出版したものであるため、原本と比べて意図的な削除・変更箇所も多く、ヨーロッパ側の印象を論じる場合以外は、依拠資料としては甚だ不十分である。なお、17世紀に入ると『報告集』の出版が希になるため、詳しい内容は17世紀末から19世紀末にかけて出版された歴史書での引用断片から推測するのが普通である。ただし、これらもイエズス会士によってイエズス会を賛賞するために書かれたのであって、聖人伝・歴史小説に近い性質を有する。なぜ原本が読まれてこなかったかという点、原本はローマ・マドリッド・リスボン・ロンドン、ヨーロッパ各地に拡散しており、翻刻どころか、目録化さえされていないものが多いためである。本稿をなすにあたり、筆者は、法政大学能楽研究所の宮本圭造氏、そして上智大学文学部の豊島正之氏とともに、在ローマ・イエズス会文書館が所蔵する原報告を調査する機会を得た。このプロジェクトでは、報告の写本を調査することによって確認できた芸能関係箇所を取り上げ、芸能史という観点からイエズス会士が目撃した様々な日本芸能の検証を行う。

日本報告でしか知られない芸能に、主に九州地方のキリスト教会において年中行事として行われた、聖書などのキリスト教説話を題材とした演劇がある。先行研究

1 松田毅一 監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』全15巻、同朋舎出版（1987～1998年）は長崎叢書・異国叢書・新異国叢書などの村上直次郎訳（後に柳谷武夫編集）に取って代わる。ただし、どれも翻訳版本『報告集』に基づく。

では、これらが日本的なのか外国的なのかという議論に留まり、これを「キリシタン能」「キリシタン幸若」「キリシタン浄瑠璃」という風に日本伝統芸能のどれかに同定し、場合によって歌舞伎など後世の伝統芸能への影響を見出そうとする傾向がある。本稿ではこの宗教思想・国家思想という観点から一步下がり、この芸能を記録する代表的な日本報告の箇所をいくつか原本から読み直す。すると、目撃者の記述に従えば、敢えてジャンルで言うとき当時ヨーロッパの教会で上演される ^{ミステリオ}mysterio 「神秘劇・聖史劇」という名称も使われるが、「演劇」という意味の語の方が圧倒的に多い。ヨーロッパのそれにも見られるような舞台効果を使いながら、日本語によって台詞が交わされ、配役も歌い方も日本風である、と書かれている。入場・門番など、劇場経営の問題にも言及している。主な特徴は以上である。なお、所作の伴わない問答や語り物があれば、派手な作り物を出す舞台劇もあるという風に、形式がそもそも一定しない。したがって、本稿ではこれらの「キリシタン劇」を国籍もジャンルも定めず、独自の芸能群と見なし、上演記録の内容を原報告に拠って読み解いていきたい。

キリシタン劇を扱った先行研究でもっとも充実したものは海老澤有道の単著『洋楽伝来記』である²。イエズス会資料を通して宣教師の芸能活動を概観しながらも、九州の教会演劇に一章を費やしており、キリシタン劇関連記事を多く紹介しているという点で貴重な研究である。ただし、例に洩れず翻訳版本『報告集』に依っている。幸い、『報告集』を多く引く割には記事内容についての議論が少なく、大まかな形でその内容を叙述するに留まっているため、原報告を視野に入れたことで完全に覆されるところも少ない。だが、例えばある報告によると、あるとき「cantiga」^{カンティーガ}が歌われたとあるところを「民衆的信仰の表現である単音聖歌」と解釈し³、一貫して「カンティーガ」を庶民性（つまり、ある上演が純日本風かどうか）の試金石に用いている⁴。このような言葉をこのように解釈できるかどうかとも再検討する必要があるが、何より重要なことは、版本『報告集』の編集者の関心が低かったためか、「カンティーガ」のような芸能に関わる用語こそが目撃者の報告が編集される際に、多くの異同が生じる箇所となっているということである。上記の場合は原本

2 海老澤有道『洋楽伝来記：キリシタン時代から幕末まで』日本基督教団出版局（1983年）本書籍は『洋楽演劇事始：キリシタンの音楽と演劇』大洋出版（1947年）の増訂版である。

3 同29頁。

4 同66頁。

も版本も「カンテীগ」であるため問題とはならないが⁵、内容に関わる異同も多く確認できる。

例えば、1560年のクリスマスの次の記事がある。原本と版本『報告集』を比べてみると、芸能史研究において重要な言葉の多くに揺れが見られる。

【①原報告（葡）】⁵

a festa do natal se celebra qua taõbem com m^{ta} alegria onde os Japãõs xpaõs uẽ todos cõ seus autos, ã de muitos dias antes se prouẽ, onde representãõ m^{tas} historias, da sagrada scriptura, e de m^{ta} doctrina sobre as quoaais historias se cõpoem cantos e trouas a sua maneira ã continuo cantaõ.

【①原報告（和訳）】⁶

降誕祭もまた大いなる喜びで祝われる。ここにキリシタンの日本人は皆、何日も前から練習される演劇を披露しに来る。ここには聖書、教義からの物語がたくさん描かれる。そのような物語を歌にも舞曲にも彼らの方法で作曲されて、これらを常に歌っている。

【①エボラ版『報告集』（葡）】⁷

A festa do Natal se celebra ca tambem cõ muita alegria, onde os Iapões Christãos vẽ todos cõ suas representações, ã de algũs dias antes se prouem, onde representãõ muitas historias da sagrada escritura, & de muita doutrina, sobre as quaes historias se compoẽ canticos, & copras á sua maneira, ã de cõtino cantaõ.

5 アルメイダ1561年10月1日府内発インド管区長ケアドロス宛。在ローマ・イエズス会文書館蔵 [Jap. Sin. 4] 161丁オ。(以下JS 4.161など) 引用文の言語を(葡)という風に示す。(西/葡)はポルトガル語かぶれのスペイン語を意味する。報告書の日付は月日も西暦である。

6 特にことわらない限り、和訳はすべて筆者による。

7 *Cartas que os padres e irmãos da companhia de Iesus escreuerão dos reynos de Iapão & China aos da mesma companhia da Índia, & Europa des do anno de 1549. até o de 1580* (Evora: Manoel de Lyra, 1598), 1巻83丁ウ。(以下C 1.83など)

【①エボラ版『報告集』(松田監訳)】⁸

当地では降誕祭が同様に大いなる歓喜のもとに行なわれ、これには日本人キリシタン一同が、数日前から準備し劇をもって臨み、聖書中の物語や教えを数多く演じた。それらの物語のために日本風の歌を作って絶えず歌った。

上の記事を分析する前にまず、厳密に言えば「原本」も「版本」も複数あるということをお断りしておきたい。紛失の可能性に備え、イエズス会報告の写本はもとから筆者か秘書が数枚書写し、「第一經由」「第二經由」などを書いて、違う道筋で送ったのである。なお、秘書が第四經由を書写している段階で筆者が戻ってきて余談を書き足した例も多く見られる。こうしてできた諸本はヨーロッパに届いてからはもちろん、途中でも書写されている。なお、当時は忠実に文書を写すという概念が薄かったため、自由に翻案・要約しながら移すのも当たり前であった。そのため、しばしば異同が生じている。100年以上にわたり書き続けられてきた日本報告の諸本をすべて把握した上での校訂と言えは最初の15年間分しかないが、幸いにも以上の箇所は、その期間に含まれている⁹。以上引用したイエズス会文書館本は自筆本ではないが、第一經由であり、リスボンやマドリッドに伝わる諸本8本はどれもこの箇所に異同がないため、これ以上目撃者の言葉に近いものはない。それに対し、いわゆるエボラ版『報告集』の記事と比べて数箇所に異同が見られる。ただ、松田監訳の基となる1598年のポルトガル語エボラ版は唯一の『報告集』ではなく、この期間の報告を最も詳細な形で出版しただけである。最も古い『報告集』は1562年のスペイン語コインブラ版であるが、ここには先に紹介した報告が全く記されていない

8 松田毅一 監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集 第3期第1巻』同朋舎出版(1997年), 372頁。(以下M 3.1.372など)

9 *Documentos del Japón 2, Monumenta Historica Societatis Iesu, Monumenta Historica Japoniae 3*, ed. Juan Ruiz de Medina (Roma: Institutum Historicum Societatis Iesu, 1995), 372。(以下MHJ 3.372など)。東京大学史料編纂所 編『日本関係海外史料 イエズス会日本書簡翰集』原文編之一、二、三(1990年, 1996年, 2011年)もあり、原本所蔵の最新情報を伝えているという点で貴重な資料である。しかしながら、底本は原本ではなく、『報告書』を優先的に用い、原本からは明らかな欠陥を補うのみという校訂方針を採っているため、本研究ではルイズ=ド=メディーナ編を参考にすることにする。

10 *Copia de algunas cartas que los padres y hermanos de la compañía de IESVS, que andan en la India, y otras partes orientales, escribieron a los de la misma compañía de Portugal*, ed. Joan de Barrera (Coimbra: Joan de Barrera, 1562)。

い¹⁰。この報告が初めて掲載されるのは次いで出版された1565年のスペイン語コインブラ版だが、クリスマスの箇所が削除されている¹¹。スペイン語に訳されずにポルトガル語で出版されるのは1570年のコインブラ版が初めてだが、依然として例の箇所がない¹²。このクリスマスの記事が活字として現れるのは松田監訳が基づく1598年のポルトガル語エボラ版だけである。

しかし、エボラ版『報告集』では、肝心なところが変わっている。原報告では、(英) act と同源で原義が「所作」である(葡) auto が「演劇」を示すために多く使われている。これに対してエボラ版では(葡) representação, つまり原義が「表現」で、アウトウよりは抽象的な言葉だが、これも「演劇」という意味で頻出する。エボラ版では、数ページにわたり原本との異同のないところも見られるのだが、この語は改められている。なお、同文章には、さらに二箇所でも異同がある。教徒達が何を作曲しているかというところで原本は cantos と trovas を挙げているが、エボラ版の責任者リーラはこれらを canticos と copras に変えている。この変更の意味や機能に関してはさらなる検討を要するが、海老澤の言うようにカントウが重唱歌でカンティーガが単音歌だとすると¹³、ヨーロッパ側の編集者がより地味なイメージを喚起させたかったとも考えられる。なぜかという、演劇にあるような言わば「狂言綺語」を巡る不安がキリスト教でも古くから存在するためである¹⁴。当時のヨーロッパでは、イエズス会は演劇界との間で一種の「文化戦争」とも言うべき状況にあり¹⁵、エボラ版でこれほど多くの報告を出版することができたのもイエズス会出身であるエボラ大司教ブラガンサが庇護したお陰である。コーブラは不明な面もあって松田では訳されないが、動詞(葡) compor (作曲する) と同源の名詞で「曲」のような意味だとすると、版本が原本の内容を曖昧にしているというこ

11 *Copia de las cartas que los padres y hermanos de la Compañía de Jesus que andan en el Iapón escriuieron a los de la misma Compañía de la India y Europa desde el año de MDXLVIII que comecaron, hasta el passado de LXIII*, ed. Joan de Barrera & Juan Alvarez (Coimbra: Joan de Barrera 1565), 246.

12 *Cartas que os padres e irmãos da Companhia de Jesus q andão nos Reynos de Iapão escreuerão aos da mesma Companhia da India e Europa des do anno de 1549 ate o de 66*, ed. Antonio de Maris (Coimbra: Antonio de Maris, 1570), 221.

13 前掲書籍38頁注8.

14 同67頁.

15 Muir, Edward, *The Culture Wars of the Late Renaissance: Skeptics, Libertines, and Opera* (Cambridge: Harvard University Press, 2007).

とになる。原本のトロヴァーは（仏）^{トルバドール}troubadourと同源で「舞踏，語り物」を意味するため，やはり教会で舞を舞うイメージが想起されないように婉曲的な表現に変えられているのではないだろうか。この箇所がこれまで完全に削除されていたということも念頭に置いて考えればその可能性がますます高くなるだろう。

日本にいた宣教師達も演劇に対して懐疑的であったようだ。上記の報告と別の宣教師も同じ出来事をさらに詳しく伝えている。今度の原本はスペイン語によるものであり，エボラ版『報告集』のポルトガル語はその翻訳である。

【②原報告（西）】¹⁶

Obra de 20 dias antes del Natal passado dixo el padre a dos o tres christianos que olgaría que hiziesen algún auto com que la noche de Natal se alegrasen todos en el Señor; y esto no detérminándoles lo que avían de hazer, mas dexándolo en su alvidrío dellos. Los quales, quando vino la noche de Natividad, salieron con tantas invenciones, al propósito de cosas que ellos tenían oídas de la Sagrada Scriptura, que era para alaban al Señor. Primero la caída de Adán y la sperança de la redemption. Y para esso posieron em medio de la iglesia una macaneja con unos pomos dorados, debaxo del qual árbol emganó Lucifer a Eva. Y esto com suus motetes em japán, que ahumque era día de alegría no avía grande ni pequeño que non lhorase. Y después de la caída fueron por el ángel echados fuera del paraíso, lo qual fue cosa de mucho más lhoro y planto, porque como com la materia tomavan causa para esso y das figuras eran gratiosas, no avía quien no lhorase. Y poco después salió Adán y Eva com la vistidura que Dios les dio. Y apareció luego un ángel confortándolos y dándoles sperança que al fin avían de ser redemidos. Los quales, com alegría y com no menos lágrimas de consolación, se dispidieron cantando, y dexaron al auditorio com alegría. Y después desto representaron aquellas dos mugeres que pidieron justitia a Salamón, la qual representatió fue buena para confusión de las mugeres que en esta tierra matan sus hijos, mostrándoles la fuersa del amor natural que

16 フェルナンデス1561年10月8日府内発インド管区長宛。MHJ3.422-4. JS4.211v-212, C1.78v-79, M 3.1.355参照。このように校訂がある範囲で原報告諸本の異同が少ない箇所は校訂からローマン体で掲載する。写本の場合はイタリック体で示し，注では写本を先に掲げる。

tiene la madre al hijo. Y assi otros muchos acaescimientos de la Sagrada Scriptura. Y después salieron los pastores a los quales apareció el ángel y les denunció la nueva de alegría y les enseñó que fuesen á adorar a Jesuchristo. Y se representó cómo á de venir Jesuchristo con infinita gloria a jusguar los buenos y malos. Y esto desía uno todo in canticas y respondíanle de otra parte los christianos, ayudándole a dizir, las mismas canticas. Estas cosas fueron todas echas, com ajuda y favor divino, tan acabadamente que mucho más olgaría que stuviéra des acáa, charissimos ermanos, para lo ver que no allá para lo oír. Y llegando a la media noche oyeron todos su missa com aquella devotión que siempre acostumbra. Y aunque estavan muchos confessados para recibir el Santíssimo Sacramento, no lo tomaron entonces. A los quales dixo el padre que podría ser que algunos tuviesen el corazón no tan quieto, por las fiestas de la noche, como era necessario; que sperassen a la fiesta del benditíssimo nombre de Jesús, en el qual día nós todos renovamos los votos y grande número de christianos tomaron el Santo Sacramento.

【②原報告（和訳）】

去年の降誕祭から20日前の準備。神父は二、三人のキリシタンに、ご降誕の晩みなが主において喜ぶためになんらかの演劇をすれば楽しいだろうと言ったが、何を準備するべきかについては指示せず、彼らの思い付きに任せた。ご降誕の晩になると彼らは、聖書から聞いたことを伝えるために何と素晴らしい技巧を繰り出した。これらは主を誉め讃えるためだった。まずはアダムの墮落と贖いの希望。このためには教会の真ん中に一つ金メッキの実がなっているリングの木を置いて、その梢の下でルシフェルがイブを騙す。これらは彼らの日本における合唱を以てであったため、喜びの日といっても老いも若きも誰でも泣かない人はいなかった。また墮落の後で楽園から追い出されたが、これは更なる泣きと嘆きの原因となった。彼らがあまりにも題材を自分のことのように思っていたのであり、役者達も優美だったし、泣かない人はいなかった。その後アダムとイブは神様にいただいた服を着て出てきた。またその後、天使が表れて慰めて、最終的には贖われるのだと希望を付けてあげた。彼らもまた喜びと少なくない涙で、歌って皆に別れを告げて、喜んで聴衆の前を去った。その後

133 (8)

はソロモン王から裁きを乞う女性たちを演じた。この演目が母親がその子に対する自然な愛情を示すところは、この国で自分の子供を殺す女性を論破するのに便利である。他にも聖書からの出来事の数々。その後は天使たちが表れて喜びの夜を告げてイエス・キリストを慕うべきだと教えてあげた牧者たちが出てきた。またイエス・キリストが善い人と悪い人を裁く無限たる栄光を以て再び来たるというのも演じられた。これらのことはずっと謡いで一人が言って、キリシタンたちもまた答えて、同じ謡いを謡うのを助けた。これらのことはすべてあまりにも神聖なる恩恵でよく繰り出されたため、最愛の兄弟よ、予想以上に大なる喜びかな、こんなのを聴くのはもちろん、観ることもできたのだから。また真夜中を過ぎたら、誰も彼もいつもの熱心さであの神父のミサを聴いたのである。ご聖体が拝領できるように懺悔しておいた人も多かったが、その時は拝領しなかった。神父が、もしかしてその晩のお祭で彼らの心の静けさが足りなくなっていたのではないかと言ったからである。したがって、我々もみな授戒を改めて、たくさんのキリシタンがご聖体を拝領した聖名祭を待つことになった。

今回の筆者が一番伝えようとしているのは、この芸能が信徒達の発想によるということである。だが厳密には、これはあくまでも司祭の依頼によって、その指導のもとでの発想なのである。まず、版本にない ^{オルガリーア}olgaría は語尾からすると動詞の単純仮定三人称単数形だが、どの動詞かは不明である。単数なので主語が司祭ならばわかりやすい。よって、(西) ^{オブリガール}obligar (義務づける、強いる) の単純仮定三人称単数形 ^{オブリガリーア}obligaría の訛りに捉えて、意味合いが「頼む」程度だとすれば、「演劇をするように頼めるかと言った」と筋が通るようになる。逆に音からするとオブリガールよりも (西) ^{オルガール}holgar (休む、怠ける、余る) の同活用形 ^{オルガリーア}holgaríaの方が妥当であろうが、こうなると主語がキリシタン達となり、非文法的である。もっとも、当時のロマンス諸語で数がとてもいい加減であるため、「怠けているキリシタン達に演劇をするように言った」だとも考えられる。ただ、そうなると司祭が、キリシタン達が第三者の連中に演劇をしると「オブリガリーア」(頼むように) 言ったという可能性も生じる。つまり、教会が司祭と信徒一同で形成されるのみならず、信徒の中に宣教師と話すような「二、三人」の土豪らしき人物と、そのあつらえに応じるような一般人との区別もあるということになる。さらに、オルガールを「楽しむ」と解する

こともできる。もっとも、スペイン語で「楽しむ」と意味するのは再帰動詞 ^{オルガールセ}holgar^セ だけで、本報告の使用言語はほぼ純粋なスペイン語で、名義人もスペイン人だが、ずっとポルトガル人に囲まれていることもあり、^{エンガニョー ルシフェル ア エヴァ}emganó Lucifer a Eva (サタンがイブを騙した) とポルトガル語の冠詞を使うこともある。したがって、(葡) ^{フォウガー}folgar が「楽しむ」と意味するポルトガル語に影響されて「キリシタン達が演劇をすれば司祭が楽しむだろうと言った」と言いたかった可能性もある。どちらにしても、役者の労力は司祭、あるいは信徒の上層階級の依頼するもの、無駄にされないように管理するもの、あるいは消費して楽しむものとして位置づけされている。この演劇は前掲のアウトウという名称で呼ばれ、興味深いことに、これも『報告集』のポルトガル語訳ではレプレゼンタサオに変えられている¹⁷。どちらにしても明らかに充実した配役も、「金メッキの実がなっているリンゴの木」のような作り物もある。この場面の台詞の発声は「彼らの日本での」^{モテーテス}motetes (多声歌) によるとあるため、声明や田植歌、現代の我々が認識できるような日本伝統芸能の多声歌が用いられた可能性もある。イエスが出てくる後半では歌い方がモテーテから ^{カンテイカス}canticas (単音歌) に変わる。ただし、台詞の分け方に関しては原報告の ^{イ エスト}Y esto ^{デスイーア ウノ トード トード カンテイカス}desia uno todo in canticas という部分を、『報告集』が ^{イ イシトウウドウダイジア ウム}E isto tudo dezia hum ^{カンチガシュ}câtigas と、曖昧な語順に変えて訳しているので海老澤は「すべて一人が」と誤解している¹⁸。だが原報告を見ると、主役も残りの信徒達も「すべて単音歌で」交代交代に歌っているため、一人でないことは明らかである。

以上の事柄について芸能史家林屋辰三郎は1954年の論文で、同じ箇所をおそらく民俗学者岡田章雄の『報告集』の引用から知り¹⁹、能のワキ・シテ・ツレの区別や能の作り物に同定してこの演劇を「切支丹能」と命名した²⁰。確かに、例えば能《半部》によくある金の瓢箪や能の地謡を連想することもできるが、逆に下層階級の日本人信徒がその場で新しい日本語の多声歌を発明したとしても、それも同じく「日本のモテーテ」と書かれるはずである。依拠資料の不充分を自覚したからか、林屋のこの記事は当時記していた単著『歌舞伎以前』ではなく、付録のような形で雑誌に入れられている。林屋は当時、能から歌舞伎を生み出した刺激、あるいは

17 C1.78v.

18 前掲書籍69頁。

19 岡田章雄「南蛮キリシタン風俗」齋藤隆三、圭室諦成 編『日本風俗史』雄山閣 (1941年) 22.

20 林屋辰三郎「歌舞伎と十字架」『新劇』8 (1954年11月)。

「失われた一環」のようなものを探しており、本記事でも「太閤能」と「切支丹能」をその候補に立てている。よく似た言説として、キリスト教徒も、例えば歴史小説家千草子も棄教者不干斎ハビアンが排耶書『破提字子』で「融ノ謡ヒ」を文章として引用する例を挙げ²¹、ハビアンも当時のキリスト教徒の多くも能や茶の湯に堪能であったと主張している²²。年号を「御出世以来」と書く海老澤も²³、キリシタン劇が「日本の中央演劇界 […]」と直接交渉したあとは見られない」と認めながら、次の段落で「日本演劇との融合」を語っていく²⁴。ただし、上記の報告では、例えば「猿楽という演劇の役者・技法を使って」「二、三の鼓に笛一本」「仮面」などというような、能と特定できる語彙情報が確認できない。なぜ先行研究において「キリシタン能」がこのように追求されるかという点、キリシタン劇と能のような「国劇」との影響関係を見出すことができれば、岡田もしたようにキリスト教と日本文化を「全くその性質を異にした」存在²⁵、つまり絶対的に矛盾しているものとする固定観念が覆されるからである。しかし、史料のままのキリシタン劇も事実、日本文化とキリスト教の融合である。ただ、キリシタン劇の源流となっている「日本文化」が能などの「国劇」ではなく、無名の民間芸能としか言えないため、それが先行研究において認識されないだけである。したがって、本研究では能など上流階級の芸能との関係を積極的に探ることはしない。

上司の前で筆者がこの出来事を語っているのは純粹に演劇を観た面白さも間違いなくあるが、墮胎する婦人への誠めなど、信徒一同に対する宗教的効果を訴える姿も見逃せない。この感想部分には、謎の オルガリーア *olgaría* が『報告集』で フォウガー *folgar* (楽しむ) と訳され、原報告でも明らかに「私が楽しんだだろう」という意味で使われるため、以上の難読箇所をもそのように訳した。否定しようとしているのはまさに「狂言綺語」の弊害であるが、最後に「もしかしてその晩のお祭で心の落ち着きが足りなくなっているのではないか」という恐れから聖体拝領をさせないため、その

21 不干斎ハビアン「破提字子」海老澤有道、土井忠生、大塚光信 編『日本思想大系25キリシタン書・排耶書』岩波書店（1970年）447頁。

22 千草子『ハビアン：藍は藍より出でて』清文堂出版（1991年）

23 海老澤有道『洋楽演劇事始：キリシタンの音楽と演劇』大洋出版（1947年）1頁。この年号の書き方は、西暦をもとの宗教的な意味、つまりイエスの誕生から数えた意味、を強調しているため、自分がキリスト教徒であるということを示している。

24 『洋楽伝来史』74頁。

25 岡田章雄「南蛮キリシタン風俗」齋藤隆三、圭室諦成 編『日本風俗史』雄山閣（1941年）3。

場の宣教師達自身もその弊害が出たと思っていることになる。ヨーロッパ諸国語において形成されてきたキリスト教の「真理」を初めて日本語で表すことさえ困難だったが²⁶、刹那に成り立つ芸能ならば、話が予期しないところへ飛んでしまう危険性がさらに感じられたにちがいない。

そういう意味で、翌1561年のクリスマス演劇も失敗に終わっているようである。

【③原報告（葡）】²⁷

Em outras festas também, e neste anno fizerão algumas representações, como em o dia de Natall. Representarão antes do nacimiento de Christo o diluvio do mundo em tempo de Noé e a sua emtrada na arca. Depois disto o cativeiro de Loth e a victória de Abraham. Nestas couzas todas sempre comcorrerão tais circunstâncias, e a couza se tratava de tal maneira que não parecia tanto ser farça como hum vivo motivo de louvar a Deos o que nellas se via. Ultimamente a vinda dos pastores ao presépio, a prática da Virgem com os pastores. En tudo isto ouve sentimento, lágrimas e choros, asi nos que representavão como nos ouvintes. Depois de tudo isto ouvirão sua missa com toda a devação, e nenhum comungou, porque quis o padre que isso ficasse pera o dia da Circumcissão.

【③原報告（和訳）】

今年、ほかの祭日のためにも、例えば降誕祭にも何遍かを演じた。キリストの降誕以前、ノアの時代に世界の大洪水、そして彼が箱船に入った時を演じた。このあとはロットの捕囚とアブラハムの勝利。これらの演目にこのような要素がいつもあまりにもよく整ってきて、笑劇ではなく、その中で観たものにつけて神を誉め讃える生きた理由となるように扱われたのである。最後には羊飼いの飼葉桶への訪れ、羊飼いたちに対する聖母の行い。これらのすべてにおいては演じる人からも聴いている人からも、情緒や涙や嘆きが聞こえてくる。これがすべて終わると、至極の信心でミサを聴いたが、神父がそれを割礼の日に

26 拙稿 “My Child Deus: Grammar versus Theology in a Japanese Christian Devotional of 1591,” *Journal of Jesuit Studies* Vol. 1 No. 3 (Brill, 2014) 参照。

27 サンチェス1562年10月11日府内発インド会友宛。MHJ3.525-6. JS4.258v. C1.101v-2, M3.2.34-5も参照。

129 (12)

しておいてほしかったので誰もご聖体拝領はしなかった。

この記録は旧約聖書物語を多く挙げているが、前年の記録にも「他にも聖書からの出来事の数々」とあるため、一曲一曲が初めて上演されているとは限らない。ノアの箱船などをどのような絡繰り仕掛けで表現したのか興味深いのが、詳述されていない。むしろ、(葡) ^{ファルガ} farça (笑劇) だろうという予想に反して、それでも全員に大いなる感動を与えたと主張し、信徒が完璧な信心でミサを聴いたと述べている。にもかかわらず、聖体拝領が許されなかった、という風に、舞台効果よりも宗教効果の方が中心となっている。

同じ報告書によると、翌1562年の復活祭にも演劇が催され、ここも大胆な演出が試みられている。

【④原報告 (葡)】²⁸

Ao dia de Páscoa, na prossião [258v] da Resureição se representarao algumas couzas da Sagrada Escripura. Comvem a saber, a saida dos filhos de Israell de Egipto. Pera isto não faltarão engenhos pera que diante da nossa igreja se fizesse hum Mar Roxo, o qual se abria ao passar dos israelitas, e se tornou a serrar quando passava Faraó com seu exército. Também se representou a istória do profeta Jonas quando saia da balea, e outras couzas a estas semelhantes. Acabada a pressião ouve huma amoestação ao povo per modo de representação, em a qual conferião as tristezas passadas da paixão com a alegria da Resureição. De tudo isto se satisfizerão tanto os christãos, e se consolarão em o Senhor, que lho não sei dizer.

【④原報告 (和訳)】

復活祭の日、復活の [258ウ] 行列では聖書のさまざまな出来事が演じられた。すなわちイスラエルの子らのエジプトからの脱出。このためには技巧が充分あって、教会の前方がひとつの紅海に見立てられて、イスラエル人達を通すためには開き、ファラオとその軍勢が通ろうとしたときにはまた逆に閉じてし

28 同。MH3.525-6. JS4.258v, CE1.101v-2, M3.2.34-5も参照。

まった。同じように予言者ヨナが鯨を逃れる物語も、他に似たようなものが演じられた。行列が終わると、過去の受難の悲しみと復活の喜びとを混同してしまったと言って、演じ方に関し、信者達への注意があった。これらすべてにわたりキリシタンたちは言葉も及ばないほどに主において満足し、慰められた。

同教会のクリスマス演劇を伝えた前掲箇所にもノアの場面への言及があったため、これは復活祭限定の演目ではないが、管見の限り絡繰りの様子はこの報告にだけ詳述されている。役者を通したり巻き込んだりする紅海を作るためには揚幕や引割緞帳のようなものが用いられたのであろうか。詳細は不明である。予言者ヨナの鯨脱出は実際に当時ヨーロッパの聖史劇では大きな鯨の作り物で表現されており、^{タンバウム セーヘアプレゼントー}(葡) *Também se representou* という接続から考えて、紅海と「同じく」絡繰り仕掛けで表現された可能性もある。ただ「同じように演じられた」とも読めるので曖昧である。前年のクリスマスときにも上演されたノアの演目を繰り返したためか、復活祭らしさが足りないと役者が教会の前で司祭に注意されている。以上報じられたように二年前の府内での上演の際、信徒の「思い付きに任せた」というのは、あくまでも宣教師の都合の許す限りである。

もっとも、府内だけではなく生月や度島でも、翌1563年、クリスマスと復活祭だけでなく他の祭日に、演劇が上演されている。

【⑤原報告 (葡)】²⁹

nas festas principais fizeram os xpãos m^{ta} festa espeçalmête o dia de Jêsus & dos Reys fizeram os Autos de Adão & de Eua & dos Pastores & dos anjos & da Cibilla & do juizo final & auinda dos Reis a visitar o Minino Jesus 'na maniadoura & de como lhes pregou a Virgem & do q̄ passarão com Herodes todos muy bem conçertados com figuraſ & deuotamête, aſ noytes vinhão a igreia, estando of homenf de huã banda & aſ molhereſ da outra começão a cantar [compereaf] versos de toda a uida de x^o & da gloria do Seu Sancto nome & da Sua Sancta Cruſ & da lus dos christaõs & cegueira dos Gentios & emganos do Demonio, em istó paſsarão quaſi toda a noyte alternandoſe em of versos tudo em sua lingoa, da qual Cousa

29 フェルナンデス1563年4月17日横瀬浦発豊後会友宛。JS 5.2. C 1.115-118, M 3.2.91も参照。

foj o Padre muy conſolado, eſte exerciçio tem eſpecialmẽte os xpãos [2v] de Iquiçuqui & de Itaquixuma aſſi Mininos como Velhos q̄ não cantão outra coufa ſenão eſtõ & aprendem no de cor & ſintem niſto grande deuaçõ não taõ ſomẽte elleſ maſ quem oſ ouue.

【⑤原報告（和訳）】

主要な祝日にキリシタンたちは大いに祝うのである。特にイエスの日や王者達の日にはアダム、イブ、羊飼いたち、天使たち、シビラ、最後の審判、馬小屋で子供のイエスを訪れに来た王たちの到来、聖母が彼らに説教をした様子、ヘロデとの出来事、どれも配役ありでとてもよく整えられていて信心深く演劇を披露して、夜々教会へ来て、男性は一方に、女性はまた一方にいて、キリストの全生涯、その聖なるみ名の栄光、その聖なる十字架、キリシタンたちの光、異教徒たちの盲目、悪魔の欺瞞を巡る問答歌を歌い出して、すべて彼らの言葉で一句一句交代交代にして、ほぼ夜通し過ごす。このことで神父も大いに慰められる。この習慣があるのは特に生月と度島のキリシタン達で、老いも若きも、これ以外は何も歌わず、これを諳記して、彼らのみならず、聞く人もこれで大いなる信心を起こす。

ここで特に演劇が上演される主要な祝日とされている「イエスの日」「王者達の日」とは、1月1日の聖名祭と1月6日の公現祭である。前者が日本のお正月と重なるので主要な祝日となるのは当然であるが、公現祭はどうだろう。そこで鍵となるのは、「イエスを訪れた王たちの到来」である。これは、東方の王者三人が幼児イエスに会いに来る中世伝説のことである。また、「ヘロデとの出来事」とは、イエスを殺そうと幼児を虐殺した君主ヘロデの物語を指す。なお、この年領主大村純忠は以上の報告で「神父」と呼ばれている宣教師コスメ・デ・トーレスの手により洗礼を授かり、最初のキリシタン大名となる。その結果、ポルトガル商船の寄港地が大村領内の長崎に定まり、臣下も一同に改宗して、領内仏教徒への増税や居住地の制限、寺社の破壊も始まるのである³⁰。海老澤はこの演劇を生月と度島で上演さ

30 J. S. A. Elisonas, "Journey to the West," *Japanese Journal of Religious Studies* Vol. 34, No. 1 (2007), 30.

31 前掲書籍72頁。

れたものとするが³¹、以下に掲げる同一人物の翌年の報告によるとこの次の1564年、生月と度島で（西／葡）^{セル ラ プリメイラ ヴイエス ケ イゼレウ エスタ フィエスタ テニエンド パドレ エン} *ser la primeyra vies que yzierno esta fiesta teniendo padre en* ^{ス コンバーニア トーダ ラ ノーチェ} *su cõpania toda la noche* 「一晩中神父を供にしてお祭をするのが初めてだった」とある³²。したがって、以上「夜々教会へ来て・・・歌う」部分は「特に生月と度島」の習慣を伝えているだけで、語り手がいて演劇が上演されるのは前文に続けて大村である。すると公現祭の日に「東方からイエスを見に来る王者」やイエスを殺そうとするヘロデの演目は、大村純忠に向けて一種の君主論を述べるために上演された可能性が高く、君主を改宗に至らしめるための作戦の一部であったと見なすこともできる。

形式について、少なくとも岡田章雄以来³³、以上を含めて一部のキリシタン劇が人形劇であったという説もある。これは諸国語に見られる ^{フィグーラ} *figura* という語を（英）^{フィギュア} *figure* と同じように「人形」と解することによって可能になる。松田監訳も、『報告集』でも綴りしか変わらない³⁴（葡）^{トドゥシュ ムイ バイム コンセルタードゥシュ コム フィグーラシュイ} *todos muy bem concertados com figuras &* ^{デヴョクメンテ} *deoutamēte* という文節を「いずれも人形 (*figuras*) により甚だよく整えられており、また信心深い演出であった」としている³⁵。ただし、この言葉が人形を示すという同時代使用例が見つからない。原義としては「形」「姿」で、人工の「絵」「図」「彫刻」「記号」をも示し、最後に「人物」「役目」「役者」もあるが、例えばフロイス『日本史』で90例、ポルトガル語から日本語へ訳す『羅葡日辞書』で66例、その逆方向の『日葡辞書』で148例ある中で、「フィグーラ」が「人形」を意味するのは人間の彫刻としての「人形」のみである³⁶。それに対して「人形」が彫刻ではなく「操人形」を意味する用例は『羅葡日辞書』にも『日葡辞書』にも1例ずつあるが、どれもフィグーラではなく（葡）^{ボニーフラテ} *bonifrate* と、今も「操人形」を示す言葉で訳している。秀吉による文禄二年禁中能を書き留めるフロイスの報告も、原本では（西）^{エントラロン ボルフィグーラスエル メスモ タイコ イ イェヤソ イ チクジュエンドノ} *entraron þ figuras el mesmo Taico, y yeyaso, y Chicugendono* 「太閤自身と家康

32 フェルナンデス1565年9月23日 平戸発中国会友宛。JS5.290. C1.200, M3.3.47も参照。

33 前掲書籍22頁。

34 CEv115v-116v.

35 MD3.2.91.

36 Luis Fróis, *Historia de Japam*, 5 vols. ed. Josef Wicki (Lisboa: Biblioteca Nacional Portugal, 1976); *Dictionarium Latino Lusitanicum, ac Iaponicum* (Amacusa: In Collegio Iaponico Societatis Iesu, 1595); *Vocabulario da lingoa de Iapam: com adequação em Portugues* (Nangasaqui: Collegio de Iapam da Companhia de Iesus, 1603).

と〔前田〕筑前殿〔利家〕がフィグーラとして出てきた」とあって³⁷、その時代と
 してもっとも充実しているラテン語訳版本『報告集』でこれは（羅）^{ベルツナ} persona
^{イプスイウスタイキー} ipsius Taici, ^{イエイアソ エット} Ieiaso, et ^{チクグンドニ} Cicugèdoni ^{レブライセンタバートゥル} repraesentabatur「太閤自身，家康，そして〔前
 田〕筑前殿〔利家〕の人物が演じられた」と訳されるが，秀吉等が人形として出て
 くる人形劇が禁中で演じられたとフロイスが思い込むわけではなく，ラテン語の翻訳
 者が曖昧なスペイン語を読み，秀吉等を演じる役者から演じられる登場人物に変え
 てしまっているという興味深い点もあるが，とにかくヨーロッパ側でもフィグーラ
 を「操人形」とは読んでいないことが明らかである。一方，フィグーラが屏風など
 の「絵」を意味する用例は多くあり，キリシタン劇が絵を背景に演じられる，明治
 時代の活人画のようなものだったとする説は^{チースリック} Cieslik によって呈さ
 れている³⁸。時代を考慮に入れると，むしろ絵解きのような要素を含めたとも考え
 られる。先行研究では絵解きの可能性が無視され，操人形の説が作られたのも，先
 述した「キリシタン能」と同じように，人形劇が「国劇」として認定されており，
 絵解きがそうでないためではなかろうか。以上のような理由から，演劇という文脈
 でのフィグーラは「絵」の可能性をも考慮に入れながら，まず「役者」と解する。

大村領のキリシタン劇は同1564年のクリスマスにも地方領主等によっても盛大に
 行われており，翌年の報告がその様子を詳しく伝えている。

【⑥原報告（西）】³⁹

*lhogada la fiesta del natal, pareçio al padre mandar a la ilha de Iguidoquĩ al pa-
 dre ñ quabral, com el F hermano Jacome ġs para I selebrar' la fiesta por al y aber
 muchos xpaõs y por sofenir a pedir muchos bezes donde selebrarão la fiesta, q
 mucha qfolacion y alegria de todos por ser la primeyra ñies que yzierão esta fi-
 esta teniendo padre en su qpania toda la noche. estuuieron en la Igle sia Rezando
 sus Rozairos y cuydando En el misterio q̃ aquela noche se Repre sentaua. aqui
 selebramos, tãobem la fiesta com mucha alegria de los xpaõs ños y los de firando
 como los dextermio a audieron [290v] Todos a esta jglesia donde pa faron toda*

37 フロイス1596年9月18日都発12月28日長崎經由1596年報補遺。JS52.233v. *De rebus iaponicis, indicis et peruianis epistolae recentiores* (Antwerp: Martin Nutij, 1605), 349; M1.2.282も参照。

38 チースリック「キリシタンと音楽」『悠久』9（1982年）。

39 フェルナンデス1565年9月23日 平戸発中国会友宛。JS5.290-290v.

la noche em oracion y parte em rrepresentaciones del misterio de la noche, como la oracion de los pastores y otros misterios de la sagrada escritura intruduziendo a los padres como binieron de Roma, la cabeça de todos los Reynos a enfenarlos estas berdades estando ellos en tanta escuridad ecluydo de su criador de lo que todos recibiam mucha qsolacion mesturada q muchas lagrimas parte pasaron em cantar, cantigas em su lengua em lo ores de diõs De manero q̄ af̄y em lo emterior como em el exterior se emtendia & nellos Grande de bacion & contentam^{to} mostrandolo aun em los bestidos p̄ que veniã todos ordnados de muy rriquos cedos cada humo q̄ forme a lo q̄ podia espicialm^{te} Dom antonio & dom Jn^o. & nesta noche mostrarão particular alegria y cumunicasion a todos los xp̄aos porque como sou las principales personas & nesta trr^a despues del Rey tienē le todos muy grande acatanio y rreuerencia espicialmente Dom amtonio mostro mucha familiaridade porque q̄ su mano repartio alguñas frutas q̄ para los que cantaron uão dieron a los niños, e ao xp̄ao q̄ em lo orden sñor dan fando canto d nos xosos mado dar huña rriquo beste q̄ para eso ya tenia mādado preparar e af̄i pasaron, hasta q̄ vino el tiempo de la misa la qual oyerão q̄ mucha Deuacion y quietacion.

【⑥原報告（和訳）】

降誕祭が近づき、神父は、生月の島にはキリシタンがたくさんおり、何回も願っていたのを知っていたため、カブラル神父とフランシスコ会のジャコメ修道士とを、お祭を執り行うためにその地へ送ることにした。そこでお祭を執り行おうとすると、一晩中神父を供にしてお祭をするのが初めてだったため地元の人々は皆得意になって喜んで、教会の中でロザリオで祈ってその夜表現された神秘を思い巡らした。ここにいる我々も、この教会ですべてを聴こうと思いついた平戸のキリシタンの大いなる喜びのもとに執り行い、教会で一晩中祈って過ごし、一時はその夜の神秘の演目で、例えば羊飼いの折りなどの聖書の神秘や、あらゆる国々の頭であるローマから、創造主から隠蔽され、あんな暗闇にいた彼らに、これらの真理を伝えに来た様子を神父達に紹介したため、皆たくさんの涙に加味された大いなる慰めを得たのであり、一時は彼らの言語による神の賛美の歌を歌った。このようにして彼らがこれらのことを内面でも外面

123 (18)

でも理解され、大いなる信心と満足をも得ている様子は、服装にも現れる。なぜなら皆それぞれの収入に合わせて豪華な絹で着飾って来たからである。特にドン・アントニオとドン・ジョアンとが国王に次いでその地の主要人物にして、皆彼らに対して尊重と崇敬の念を抱いていたため、その夜、キリシタンの皆に格別の喜びと親愛を現して、ドン・アントニオは特に、自分の手で歌う人々のためにあった果物を男の子らに渡して大変懇ろな態度を現し、また、踊りながら我々の教えを歌うように頼んでいたあるキリシタンには、そのために用意させておいていた豪華な服をあげさせて、このようにミサの時間が来るまで過ごし、ミサは大いなる信心と落ち着きで聴いた。

一晩中祈りや演劇で過ごしているのだが、聖書物語の演劇にはあまり触れない。ちなみに、海老澤はこの記録の減少を真に受けてキリシタン劇が徐々に上演されなくなったと解釈しているが⁴⁰、ここも見られるように、キリシタン劇が報告されるのは珍しい出来事で上司を喜ばせるためであり、すでに報告したことのある演劇の内容や演出を何度も書くのではなく、特に同一筆者が報告している間は、新しいことしか書かないのである。海老澤が言うように、イエズス会内幹部の演劇への制限の結果、弱体化した面もあるだろうが、それより重視したいのは、この制限によって演劇を上司に報告する意味がなくなったということである。事実、下記の報告に、「過ぐる降誕のお祭に関しては、書くに値することは何もない。毎年書かれているので今年何をしたかはそれで知れたことであろう」とある。したがって、聖務日課や毎日のミサと同じようにキリシタン劇も、報告されるのは最初の頃だけであるにもかかわらず、禁教令の下る慶長末まで行われており、周知のこととして書かれなくなっただけなのであろう。おそらくこのような理由で以上の筆者も聖書物語の演目に短く言及し、宣教師達自身の日本への旅と宣教活動を描いた作品に飛び込んでいるのである。

なお、原報告に (西) *intruduziendo a los padres como vinieron* 「神父達に彼らがやって来た様子を紹介して」とあるところは、『報告集』のポルトガル語訳では間接目的語の前置詞 ⁷*a* (に) が省かれ、動詞が先頭にあつて主語が二番目に来ることも両言語に多いため、松田監訳では司祭等が役者になって自分で演じているという

40 前掲書籍78頁。

意味に変わってしまう。

【⑥報告集（葡）】⁴¹

entremetendo os padres como vieraõ de Roma cabeça de todos os Reinos, a insinarlhes estas verdades, estão elles em tanta cequeira,

【⑥報告集（松田監訳）】

司祭らはその間に、諸王国の首都であるローマから司祭らが訪れ、創造主を忘れてはなはだしい無知蒙昧に陥っている彼ら（日本人）に真理を説く様を（上演）した。

ただし、原報告からわかるように、役者は依然として一般信徒である。

競い合って豪華な服を着てくる信者達の様子から覗えるのは、この演劇が宗教的な内容だけではなく社会階級的な役割をも演じたということである。なお、それを介して地方の上流層も当然のごとく教会の年中行事に参加しているということも、筆者が誇らしくも伝えている。ドン・アントニオとドン・ジョアンという二人の日本人士豪が、領主である純忠に次いで全国民が尊敬している人であり、彼らさえ喜ばせることができれば他は付いてくるという理論である。これは、まさに大村純忠が改宗したために、臣下全員も一同に改宗したという同年の報告といかにも相応しい。より低い階級に属する役者達の果物を取り、「自分の手で」童子にあげるという行為はヨーロッパの聖人伝における優しい明君像と共鳴するが、男色などの性も密接に関わる日本の伝統芸能では他にも共鳴するところが色々あることは、報告者はおそらく知らないであろう。キリスト教の歌を歌った男性への禄として服をあげるのも前後の日本芸能史と一貫性が見られて興味深い。ここでもミサを聴いたとあるが、聖体拝領が許されたとは書いていない。

そういったキリシタン劇の社会的・経済的位相を物語る記録として、まだキリシタンになっていない大友宗麟の統治する府内で1566年のクリスマスの演劇を書き留める報告もある。ここに「キリシタン劇論」とも言うべき上演空間の説明もあるので先行研究でも必ず言及されるのであるが、原文は以下の通りである。

41 同。C1.200, M3.3.48.

【⑦原報告（葡）】⁴²

no natal pasado da festa q̄ ouve não digno nada p^{or} que polo q̄ cada ano se escreue sobre ysto se emtendera o q̄ fizemos este ano a esta festa acudirão muytos dos xpãos das aldeas com suas molheres, e f^{os}, representase nesta festa sempre na noyte do nacimiento, no meio da igreja algũs pasos da escritura por figuras q̄ o reþresentão, asy como pasou[, são os paços como ora a caida de adão, de abra-hão, e lot., o diluuió, e arca de noe q̄ se acrecem tou este ano. o casa de Josef e seus irmãos, com seu pay Jacob, ate a ętrada do egipto,] costumão os Jaþõis nestas representaçõis mostrar os principais pacos þ figuras, e o q̄ mais convem he prati-cada þlas mesmas figuras, þer seus dytos, o que þertemçe ao escriptor coronysta ou euangelista, cantão em hũ coro, algũs de fora ordenados þera isto com se entre-meter, algua doctrina q̄ faz ao caso þera declaração da cousa, e edificação dos xpãos e þor estas cousas serem misterios de nosa santa fee, admirabeis, cousa tão nova nesta gentilidade, e acomdada a representação de seu þroþrio modo acode a esta festa m^{ta} jente, não soamente xpãos mas muytos gentios, parentes dos mes-mos xpãos que p^{or} sua emteração como podẽ escomdidam^{te} vem, a qual de se não tyuese aportã acuderia todo a gente þ o guosto q̄ nisto semtem, e o q̄ em p^{te} fora bom se þudera ser, þera q̄ þer qual q̄ via tiverã noticia do que tanto faz ao caso þera saluasão das almas mas þ que em alguntameto de gente asy solta d' sua von-tade não deixa ^{na}de acomteçer, muitos imcõuenyetes muyto þiriguosos habrese a þorta do campo da igreja, solomẽte aos xpãos e com lhes emtrãs, os que þ sua emterçeção entreão os quais þ emtrarem, asy, se acomodão a þaz e silemcio/. o fruto que nisto se colhe ajmda þera com os gentios, he muyto þor ser todo hũ lume e conhecimẽto, þrimcipio de q̄ a comuerçãõ se segue/..

【⑦原報告（和訳）】

過ぐる降誕のお祭に関しては、書くに値することは何もない。毎年書かれているので今年何をしたかはそれで知れたことであろう。このお祭には村々のキリシタンが奥さん達と子供達を連れて出席し、このお祭ではいつもご降誕の夜に、

42 フィゲレイド1567年9月27日豊後発。JS6:193-196v. C1.243, M3.3.219-26も参照。

教会の真ん中で幾つか聖書の段を、それらを演じる役者で、実際あったのと同じように演じる。段には例えばアダムの墮落、アブラハムやロットの段、今年始めた大洪水とノアの箱船、ヨセフとその兄弟とその父の話、エジプト入りまでである。日本人達の習慣にはこれらの演目の主な段を役者で現して、その詞には、筆者・記録者・福音書の著者などに属するものは合唱団で歌って、外の人たちはこれを巡る解説となりキリシタン達の啓蒙に繋がるような教理を差し挟むことを任せられる。なお、これらが我が聖なる信仰の神秘、驚くべきこと、この異教徒の地では大変珍しいことであり、演目がその相応しい形式に整えられると、たくさんの人はこの上演に入場させられる。これはキリシタンだけでなく、キリシタン達の親戚の異教徒もその紹介を通してできるだけ密かに来るのだが、門番がいなければ余りにも楽しむので皆出席するだろう。これも可能であれば、とにかく魂の救いには大変有効なあのお知らせが伝わるだけに、ある意味では良いことなのだろうが、門は教会の中庭に面するし、群衆をそのように放っておけば必ず不都合で危険なことが起こってしまうに決まっている。なので門はキリシタンとその連れ合いのみに開けることにして、入場したい人は彼らの取り次ぎで誰でも入場でき、平和と静けさで席につく。このことにより異教徒の間でも得られた収穫が多いのは、それがすべて光と理解、特に改宗に至る理解だからである。

クリスマス話は省略するという但し書きは、宗教儀式の話に関して言っているのだろうが、フィゲレイドの几帳面な報告を読んでいると芸能関係箇所も本当に省略された形だと思えてくる。他に見られないヨセフの演目を記録しているが、以上1561年のクリスマスから府内で上演記録のあるノアの演目が今年初めて府内で上演されているとも言うので不思議である。それはともかく、ここで注目したいのは演劇論である。まず、役者をもって重要な場面を表現しており、その所作も台詞も役者が演出するが、聖書ではナレーションになっている部分は地謡が唱える。なお、他にもナレーターとはまた別の人で宗教的な解説を言い足す人も複数いる。これは日本伝統芸能とは異なるようにも思われるが、実は『日葡辞書』で *nôai* [能間] ^{ヘプレゼンタセウ エム ケ スママーリアメンテ セディジュウ デ ケ セトラータ ノアウトウ} の条項には *Representação em que summariamente se diz o de que se trata no auto* 「演劇の内容が要約的に言われる演芸」とあり、『羅葡日辞書』もあるラテン語条項の和訳として *Nôno fajimarazaru saqini mazzu sono cotouariuo cataru cotouo yû,*

nôno ai (能の始まらざる先にまづそのことわりを語ることを言う、能の間) とあるため、かえってこの解説者はキリシタン劇を能と関連付ける最も強い理由の一つなのかも知れない。

16世紀の作品とされる歴博甲本『洛中洛外図屏風』に「くわんせのう」という箇所、能舞台の周りに囲いが建てられて入場が制限されているが、キリシタン劇の場合は金銭ではなく魂を集めようとしており、誰を何人入れてもいいはずである。ただし、門が教会の中庭に面しているためか、その場合は不都合と危険性が生じるだろうとある。教会構内で暴れ出す異教徒をヨーロッパ側の読者が想起しないようにか、『報告集』では「危険性」という語だけが削除されている。だが、宣教師達がそういった騒動も起こるのではないかと恐れていた様子が、原報告から覗える。

本稿では演劇の記録を取り上げているが、他にも供奉の行列、復元されたイエスの十字架、お墓の前での通夜、説教や論議文学の朗詠や大衆による踊りなどの活動も始終記録されている。中には独り舞台、語り物芸能のようなものもある。例えば1567年の五島列島における復活祭の日に関して、『報告集』では次の通りにしか記されない。

【⑧報告集 (葡)】⁴³

O dia de Pascoa gastarão em dâças, & câtar estêdo as casas & ruas enramadas cõ muitos ramos e flores. No meo de hũa dâça êtrou hũ christão do Reino de Arima cõ hũa cruz às costas & hũa coroa de espinhos na cabeça, dizendo algũs ditos em sua lingoa, muito deuotos.

【⑧報告集 (松田監訳)】

復活祭の日は多数の枝や花で家や通りを飾り、舞踊や歌唱を行なって過ごした。舞踊の途中で、有馬国の一キリシタンが十字架を背負い、茨の冠を被って、日本語でいと敬慶な格語を述べた。

これに対して原報告を見ると、有馬領、つまり島原半島の人による「格語」ではなく、舞装束を着た派手な語り物が上演されたとが詳しく述べられている。

43 モンテ1567年10月26日 五島発ローマ大学宛. C1.249-v, M3.3.248.

【⑧原報告 (伊／西)】⁴⁴

receuereno tanta fe et diuotione che he per dare molte laude a il signore. foreno molti li disiplināti cō rezeta a fi la s^a fr^a come anchor nella professione della note. Era tāta la diuotione E sentimēto che pareua che fa sieno xpiani uechi de Europa. feci la professione della resurexione la matina de passca in lalba, onde restareno tuti in extremo cōsolati nel signore. poi dezenarano tuti nella giesia com molto amore et charita. tuto il giorno fui tāta la festa E alegria che nō pareua f inō festa de Europā. stauano tute le uie in frascate, et con molte flore, et tute le lore case, et porte, foreno molte de danse, et cācone in sua lingua. in megio de una dāsa into uno xpiano dil regno di Arima cō una cruce nelle spale et una corona de spine sopra il capo, et dixe alcuni diti in sua lingua ·s· a fi come χ^o no Iso redētore hauia superado, et uinto il potere dil demonio com la morte della cruce et staua ta gia aperto il camino ꝑ andare alla gloria che sera lagraseno, et cādahū uno ꝑi gli ase sua cruce et seguise il suo capitano. ꝑi com questo fui molta la deuotione che si receuete de siml actjs et diti molta gloria et honore fia ad signore.

【⑧原報告 (和訳)】

復活の行列は復活祭の朝の夜明けから行われ、皆主において至極に慰められた。それから皆は大なる友情と親愛をもって教会でお食事をした。一日中ヨーロッパでないとは思えないほど喜ばしい宴会が続いた。すべての街並みには木の枝やたくさんの花が、また皆の家にも門にも飾ってあり、彼らはたくさんの踊りや歌を自分たちの言語でする。踊りの最中に、有馬国のあるキリシタンは十字架を担いで茨の冠を被り、我々の贖い主キリストがその十字架での死によって勝利を得て、悪魔から権利を奪い取っているのだという旨のいくつかの話を彼の言語で語り、[炉端／道端] から少し離れて立ってこの印においてあるべき栄光を歌い、一度歌ったら十字架を担いでその指揮者 [イエス] の跡を追っていった。主の栄光と誉れとして、言葉においても行いにおいてもこのような信心は最近見られる。

44 同。JS6.253.

まず、この独演会が行われる場所については不明である。^{カミーノ}camino というのが依然としてイタリア語であれば「炉端」という意味で、前文にお食事をしているとある教会の中だということになる。ただ、ローマ大学へ向けて執筆されているためかモンテが特別に使っているイタリア語が綴りも文法もかなりスペイン語を気触れている。そのため、カミーノだけをスペイン語として読んで「道」と解することもできる。そうすると「道端」となり、供奉の行列や踊りに引き続き屋外での語りとなる。以上のいくつかの報告でも、クリスマスのに生月、度島、平戸の信徒が大村に、豊後では府内に集まっている様子が覗えるが、ここでは逆にポルトガル商船が錨泊する長崎・口之津辺り、言わば中心部の人々が離島へ行き、クリスマスを過ごしているのである。宣教師もそもそも地方を巡行しながら活動しているため、熱心な信者がそれについていく形で五島列島へ渡ることなど、様々な事柄が考えられるが、五島列島の市場に応じてキリスト教ものの芸能を準備して、魂だけではなく金銭のためにも、プロの舞太夫として遠征しているとも考えられる。パチカン文庫蔵の『バレット写本』に日本語のキリスト教説話に「我々の『舞』○○丁を参照」という傍注があるため、その写本の発見者であるイエズス会士^{シュütte}Schütte も前述のチースリックもこれに基づき「キリシタン幸若」が作曲され、さらに出版され、以上追究してきたキリシタン劇もすべて幸若舞であろうとしている⁴⁵。ただ、柗源一も指摘しているように、そこで「大職冠の舞」と具体的に挙げられている曲名は既存の舞曲であって、バレット写本の本文とテーマ上の共鳴を示しているだけであるため、他の傍注も普通の舞曲と単なるテーマ的な関連性を指摘しているだけだとも考えられる⁴⁶。シュütteの弟子^{ライムス}Leims もキリシタン劇の存在、このキリシタン幸若説、そして当時ヨーロッパの演劇に「写実性」と「内面性」があり、歌舞伎においてそれらが日本の演劇で初めて現れたという前提に基づいて、イエズス会芸能活動が歌舞伎の発明を触発した決定的な刺激であったとまで主張している⁴⁷。これらの先行研究に比

45 Josef Schütte, "Christliche Japanische Literatur, Bilder und Druckblätter in einem Unbekannten Vatikanischen Codex aus dem Jahre 1591," *Archivum Historicum Societatis Iesu* Vol. 9 (1940), 256-257. チースリック「宗教思想史から見たバレット写本」「キリシタン研究第七輯」(1962年)。

46 柗源一「キリシタンと舞」『国語国文』35/6 (1966年)。

47 Thomas Leims, *Die Entstehung des Kabuki: Transkulturation Europa-Japan im 16. und 17. Jahrhundert* (Leiden: Brill, 1990). Nicola Liscutin 書評 "Review of *Die Entstehung des Kabuki: Transkulturation Europa-Japan im 16. und 17. Jahrhundert.* by Thomas F. Leims," *Monumenta Nipponica* Vol. 46 No. 2 (1991) も参照。

べ原報告の内容は、キリシタン芸能の一般庶民における普及を具体的にを見せてくれている。

「国劇」めいたものとの影響関係はともかく、以上では、九州地方の教会を中心に演じられたキリシタン劇の様子を書き留めるイエズス会日本報告をいくつか、目撃者に最も近い原写本から取り上げてみた。その結果、日本人キリスト教徒が異文化圏の諸国語を習い、その宗教説話を邦語に訳した上で、配役、節付け、型付けを行い、他に例を見ない舞台効果を企み、自力でキリシタン劇を上演していたことが明らかになった。一方で、イエズス会士達は、演劇そのものに対しては懐疑的であり、それを上演する信徒達の信心を監視し、領主の好意を買うために演劇の内容や上演時期を選び、教会構内に大勢の異教徒を入れることに不安を抱いている。地方の有力者は、立派な服を着て典礼に出席し、観劇や男色などの娯楽に耽り、その服を禄として役者にも配り、宣教師達の世話焼きを楽しく受け止めている。さらには、宣教師達の影で諸国を旅し、教会の年中行事に合わせてキリスト教を題材とした芸能を披露していく語り太夫の存在も覗える。このようにキリシタン劇を垣間見ることができた。現時点で164件確認できている芸能関係箇所の中で、本稿では8件を掲げて論じたが、今後はさらなる記録の目録化と調査を課題としたい。